

令和7年8月

# 奈良県の概要（管内概況）



近畿農政局奈良県拠点

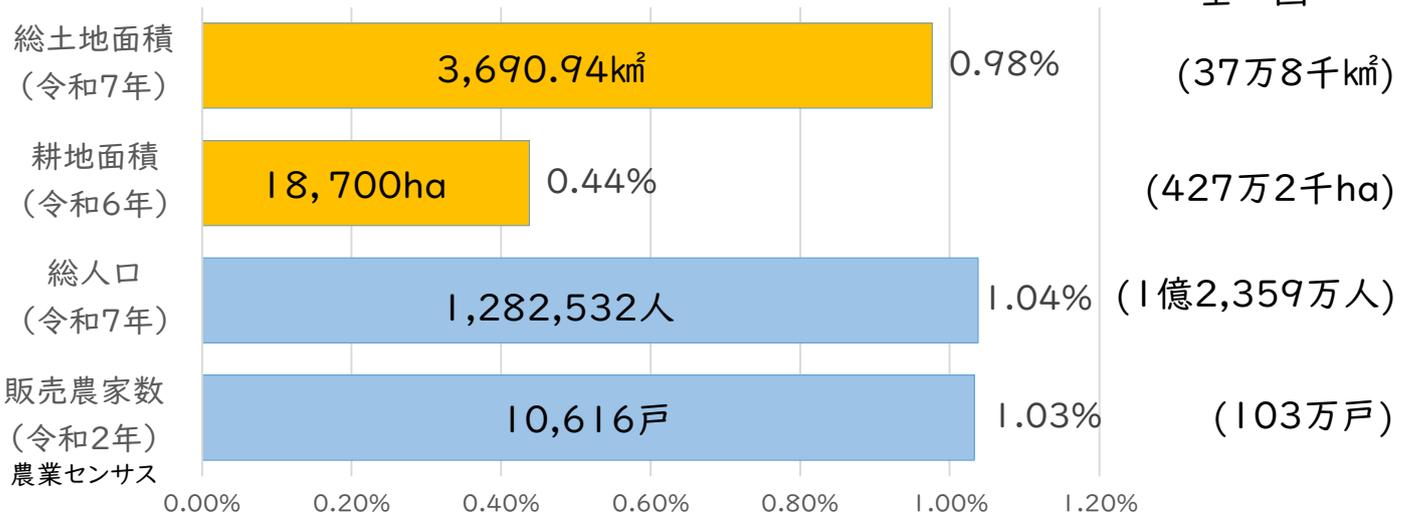
Stationed at Nara Prefecture Area, Kinki Regional Agricultural Administration Office

表紙：法起寺(斑鳩の里) 現存最古の三重塔(国宝)

奈良県は近畿地方のほぼ中央に位置し、海岸に接しない内陸県で、北部平地と南部吉野山地とに大別できます。京都や大阪・神戸への交通の便もよく、大都市のベッドタウンとしての特色を有し、都市近郊農業が営まれています。

大和平野地域では米を中心に野菜や花き、北東部の大和高原地域では茶、畜産、高原野菜、北西部の丘陵地帯では小菊、南部の五條・吉野地域では、柿や梅などの果樹、切り枝栽培が盛んに行われています。

### 奈良県の全国に占める割合



### 主な農林水産物

<p><b>柿</b></p> <p>全国有数の産地。「奈良の柿」として全国・首都圏に出荷。 (出荷量全国2位)</p>		<p><b>きく(切り花)</b></p> <p>小ぎく・ニ輪ぎくの産地を形成。関西市場で高い占有率を確保。 (きく:出荷量全国6位)</p>	
<p><b>いちご</b></p> <p>アスカルビー、古都華、奈乃華等の品種を開発・育成。</p>		<p><b>茶</b></p> <p>「大和茶」のブランドで産地を形成。</p>	
<p><b>畜産物</b></p> <p>大和牛、ヤマトポーク、大和肉鶏、大和なでしこ卵、大和の雫(蜂蜜)としてブランド化。</p>		<p><b>大和野菜</b></p> <p>大和まなや千筋みずな等を大和野菜に県が認定し、生産拡大を推進。</p>	
<p><b>スギ・ヒノキ</b></p> <p>木目が美しく、建築用材として高い評価。吉野杉は全国的に有名。</p>		<p><b>切り枝・切り葉</b></p> <p>サクラ・アセビ・コウヤマキなど1年を通じて多様な品目を出荷。</p>	
<p><b>金魚</b></p> <p>「奈良県のさかな」に指定。 (平成24年6月指定)</p>		<p><b>薬用作物</b></p> <p>大和トウキ・キハダなどを振興。</p>	

奈良県は南北に長く四方を山に囲まれています。盆地あり、高原あり、そして山があり、自然が豊かなところ。地域によって気温の差が大きいのが特徴です。(下グラフ参照)

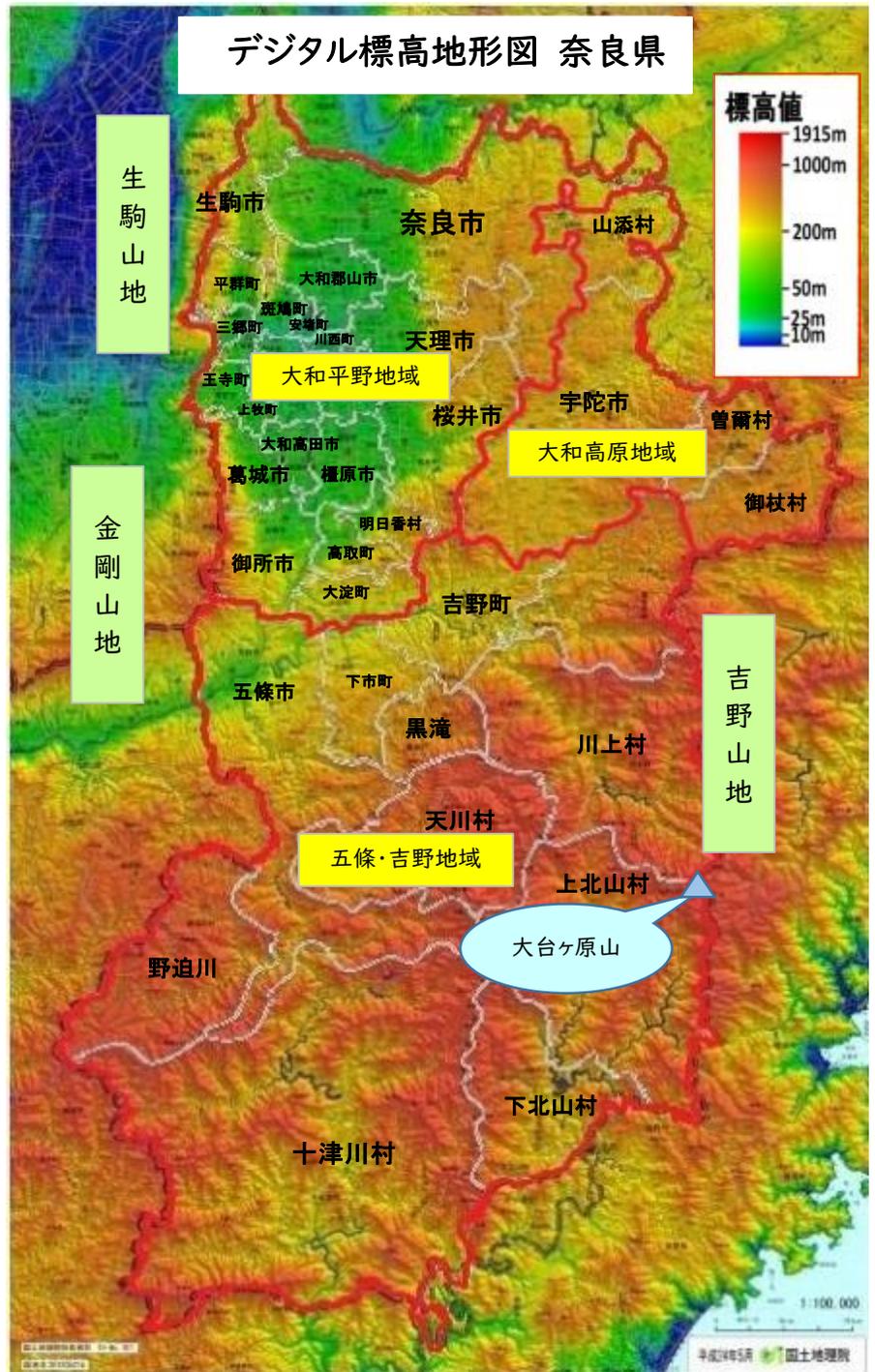
奈良県の気候・風土は大きく以下の3つに分けられます。

●**大和平野地域** 標高はほぼ30mから100m、内陸性気候で一日の内の最高気温と最低気温の差が大きい。夏は暑く、冬は寒い。

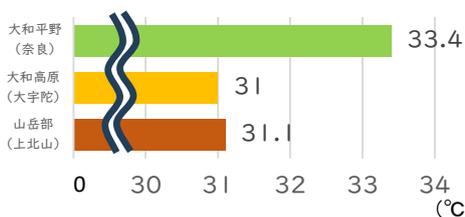
●**大和高原地域** 標高は一般に400mから500m、内陸性気候と山岳性気候の特徴を兼ね、大和平野地域よりも夏は冷涼で、特に冬の寒さが厳しい。

●**五條・吉野地域(山岳地域)**  
 県面積の約2/3を占め、山岳性気候の特徴を有し、特に大台ヶ原山を中心とする南東山地は、日本屈指の多雨地帯で夏の雨量が極めて多く、冬は厳しい冬山の様相になる。

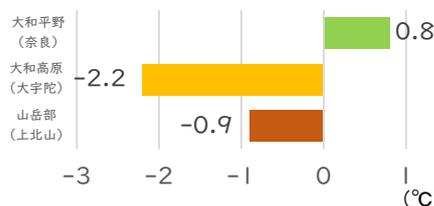
出典:国土地理院ウェブサイト  
 ([https://www.gsi.go.jp/kankyochiri/degitalelevationmap\\_kinki.html](https://www.gsi.go.jp/kankyochiri/degitalelevationmap_kinki.html))  
 デジタル標高地形図「奈良県」(平成24年5月)を加工して作成



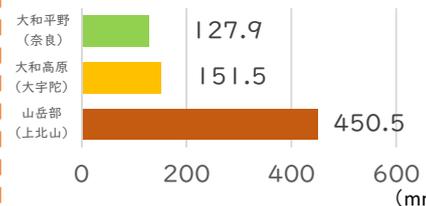
日最高気温(8月)



日最低気温(1月)



降水量(8月)



(気象庁ホームページより。数値は、各観測地の、1991年から2020年までの30年間の平均)

地域別に以下のような特徴があります。

- 大和平野地域の北部：米を中心に野菜や花き、北西部の丘陵地帯では小菊、
- 大和高原地域：茶、畜産、高原野菜、
- 南部の五條・吉野地域：柿や梅などの果樹栽培

また県独自の取組として、県内の農地を有効活用・生産性の向上を図るため、3市3町(大和郡山市、五條市、宇陀市、平群町、田原本町、広陵町)9地区を「特定農業振興ゾーン」(⇒P7・8・9)としてエリア設定し、生産振興・産地形成を図っています。

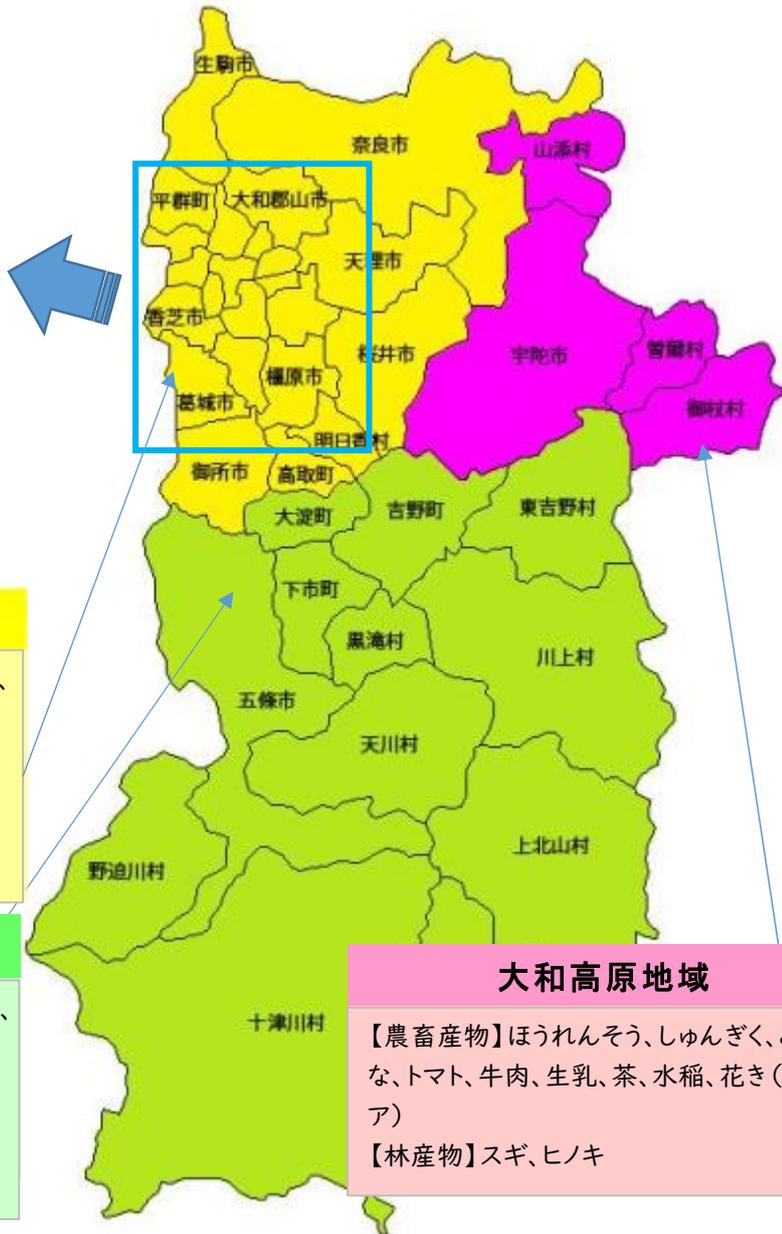


### 大和平野地域

【農畜産物】花き〔切り花類(小ぎく、輪ぎく、ばら)、花壇用苗物類、シクラメン(鉢もの類)〕、いちご、イチジク、しゅんぎく、こまつな、ねぎ、なす、トマト、かき、茶、水稻、生乳  
【水産物】金魚

### 五條・吉野地域

【農畜産物】かき、うめ、なす、トマト、きゅうり、ねぎ、水稻、薬用作物(トウキ、シャクヤク)、切り枝(切り花類)、生乳、卵、鶏肉、豚肉  
【林産物】スギ、ヒノキ  
【水産物】あゆ、あまご



### 大和高原地域

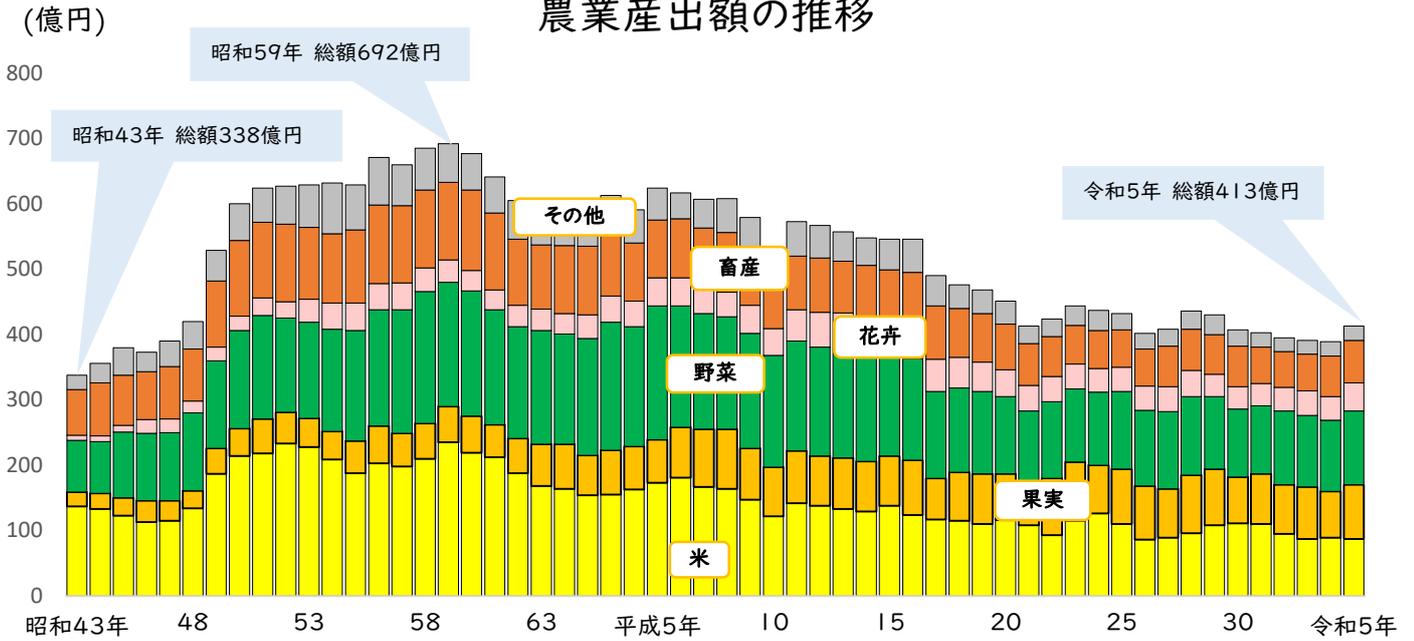
【農畜産物】ほうれんそう、しゅんぎく、みずな、トマト、牛肉、生乳、茶、水稻、花き(ダリア)  
【林産物】スギ、ヒノキ

### 【大和野菜:25品目】

大和まな、千筋(せんすじ)みずな、宇陀金(うだきん)ごぼう、大和いも、結崎ネブカ(ゆうぎきねぶか)(ねぎ)、黄金まくわ(ウリ)、大和丸なす、下北春まな(漬け菜)、大和寒熟ほうれん草、ひもとうがらし、軟白ずいき、祝だいこん、小しょうが、花みょうが、大和きくな、紫とうがらし、片平あかね(蕪)、筒井れんこん、大和三尺きゅうり、味間いも(あじまいも)、黒滝白きゅうり(くろたきしろきゅうり)、大和ふとねぎ、香りごぼう、半白きゅうり、朝採り野菜

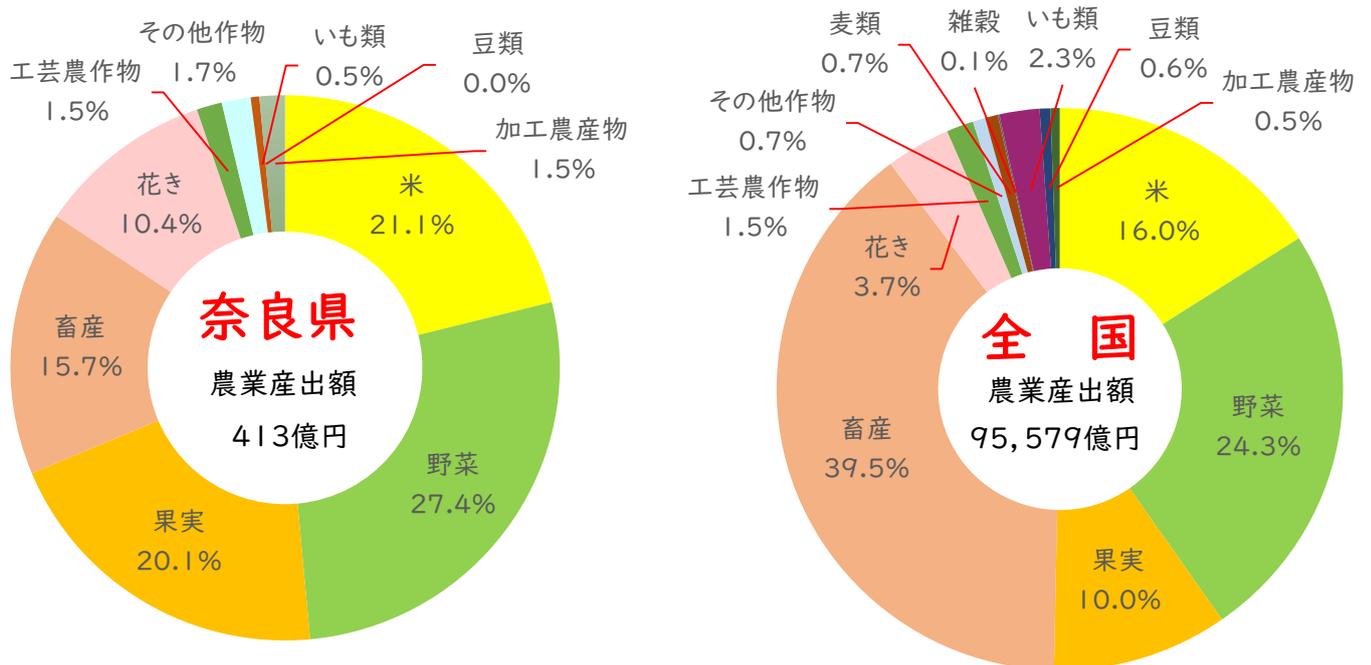
- ◆ 令和5年の農業産出額は413億円で全国45位となっており、ピークであった昭和59年に比べて約40%減少しています。(R5 46位…大阪320億円、47位…東京220億円)
- ◆ 産出額の高い主な生産品目は、米、野菜が中心となります。
- ◆ 全国的に有名なものとしては、柿の収穫量が和歌山県に次いで全国第2位で関西市場では高いシェアとなっています。

農業産出額の推移



資料:農林水産省「生産農業所得統計」

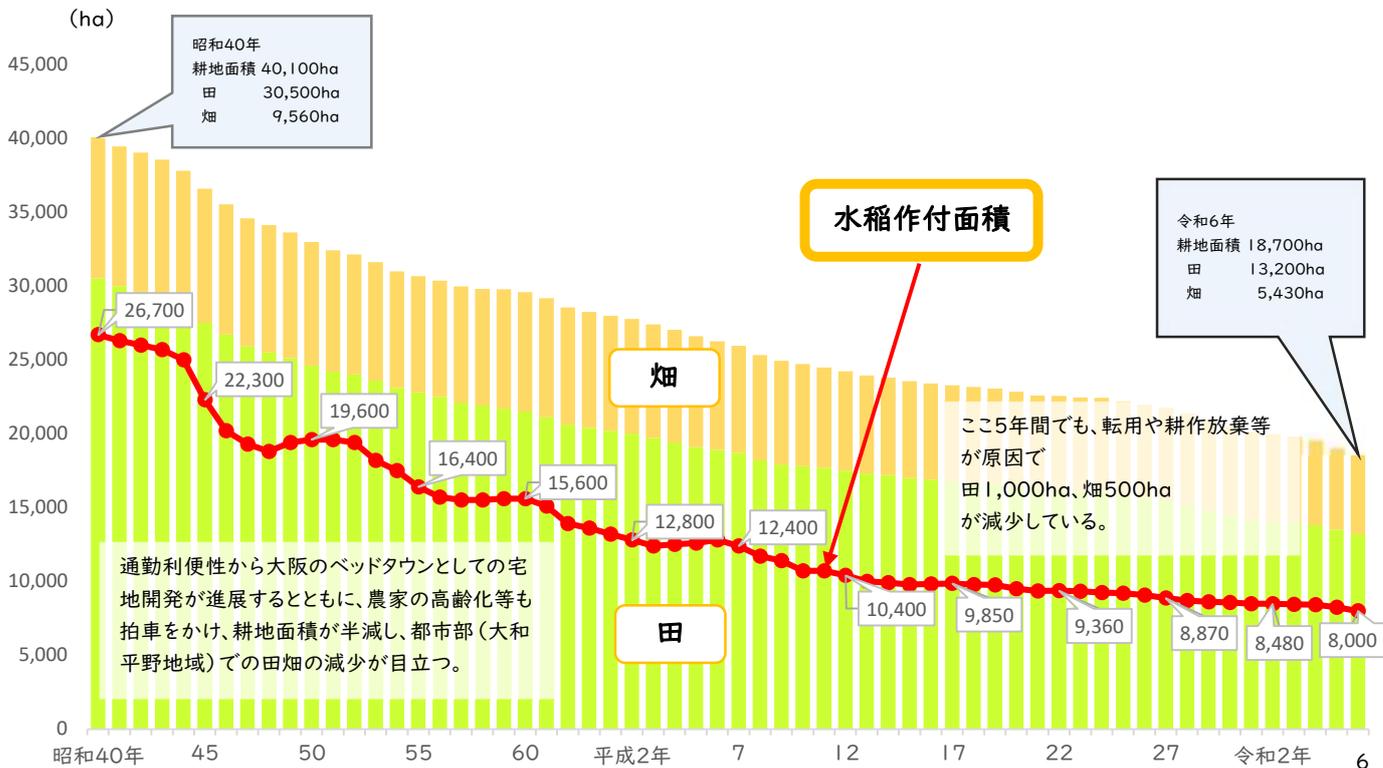
農業産出額の構成比(令和5年)



資料:農林水産省「生産農業所得統計」

- ◆ 奈良盆地の特徴として、奈良時代からの条里制が残っており、農地が細かく区切られています。
- ◆ 耕地面積は、転用や耕作放棄等により、昭和40年～令和6年の間に半減しています。
- ◆ 高齢化に伴う農家数の減少により、耕作放棄地が増加しています。中間管理機構に出されても、小さな面積で、まとまっていない等の理由により受け手が見つからない状況にあります。

## 耕地及び水稲作付面積の推移



資料: 農林水産省「耕地及び作付面積統計」、「作物統計」

## 奈良盆地と条里制

「条里制」とは、奈良時代に全国的にはじまった農地造成事業で、現在もその土地区画が引き継がれている地域が多くあります。これは、109mの正方形の土地を「坪」と呼び、坪を南北に6個並べて「一条」、東西に6個並べて「一里」とした土地区画制度で、何条何里何坪でその所在を示します。一坪の中はさらに10に分けられ、その1区画は一段(たん)と呼ばれています。

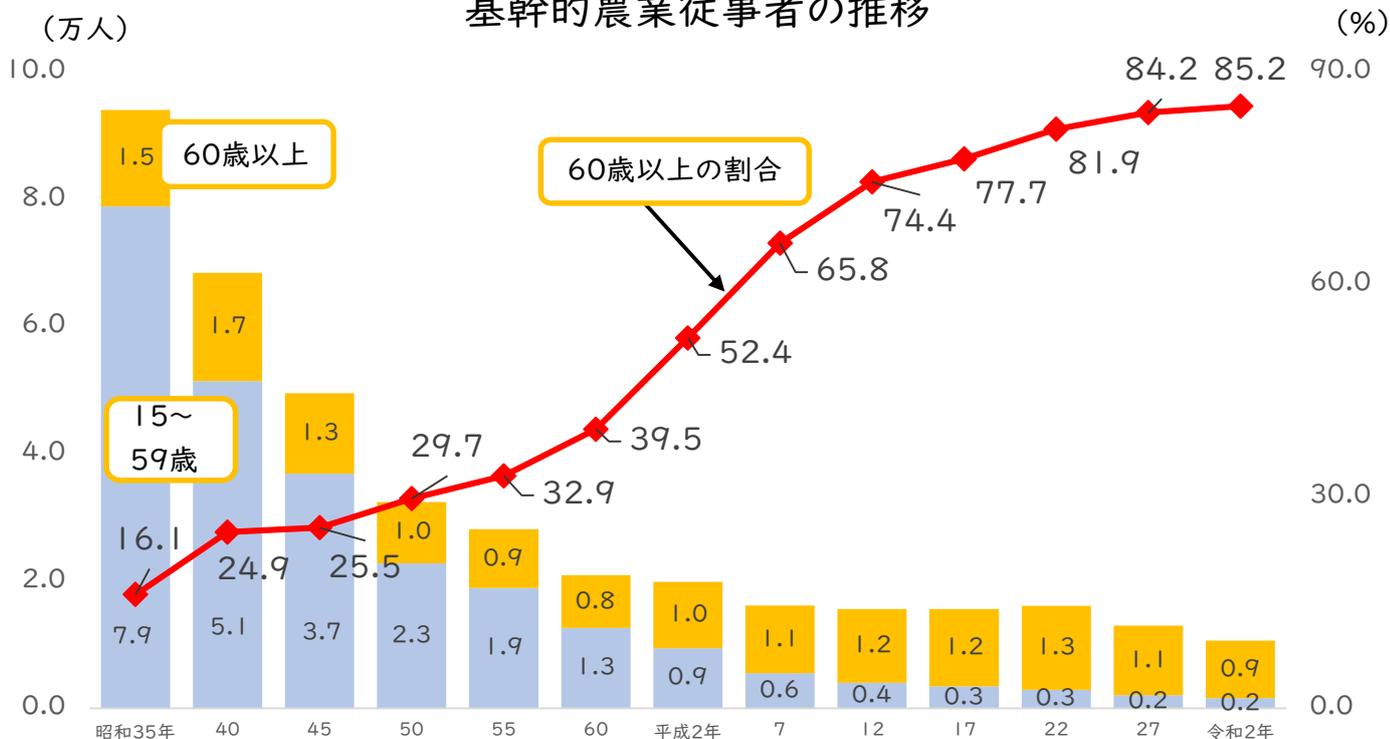
出典: 国土地理院ウェブサイト  
 (<https://service.gsi.go.jp/map-photos/>)  
 空中写真を加工して作成



条里制が遺存していると思われる香芝市鎌田  
 1975年(昭和50年)撮影

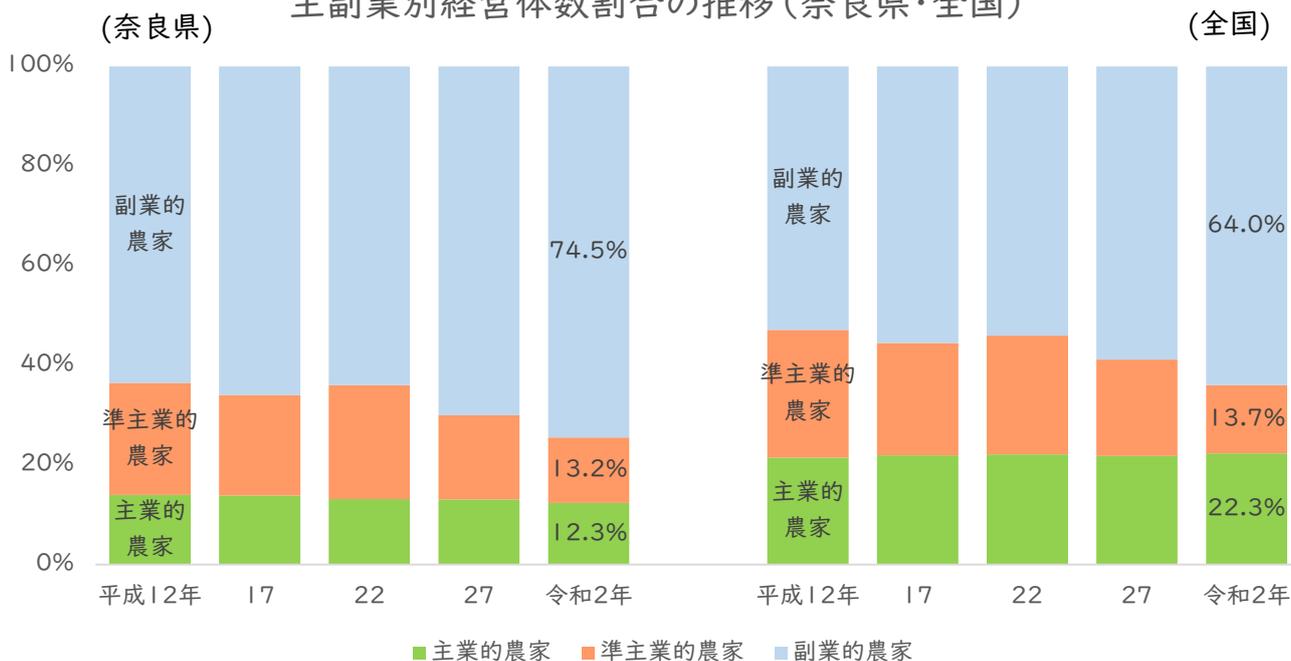
奈良県で農業に従事する人は、この60年あまりの間に1割程度まで減少しました。  
なかでも高齢化は年々進んでおり、令和2年では60歳以上の割合が全体の85.2%を占めており、  
後継者不足を解消するためにも多様な担い手の創出が課題となっています。

基幹的農業従事者の推移



資料：農林水産省「農林業センサス」

主副業別経営体数割合の推移 (奈良県・全国)



資料：農林水産省「農林業センサス」

## 特色ある取組～特定農業振興ゾーン①～

奈良県では、農地の有効活用と農業の生産性向上を図るため、平成30年度から農業振興施策を集中的・優先的に推進する特定農業振興ゾーンの設置・拡大に取り組んでいます。

特定農業振興ゾーンは、奈良県特定農業振興ゾーンに関する規則に基づき、3市3町9地区に設定されています。これらの各エリアでは、

- ◆地域の特徴を踏まえた高収益作物への転換、◆農地の集団化、◆耕作放棄地の解消・防止、
  - ◆多様な担い手の確保、◆担い手への農地集積、◆農地整備
- などが進められます。

### 1 たわらもとちょう ほうきじ 田原本町法貴寺地区 (72ha、124戸)

#### 将来像

地区内の企業と連携した**スイカの採種**

#### 設定計画の概要

- ・地区内の企業との連携  
スイカの採種（他作物と組み合わせて栽培）
- ・高収益作物に取り組む専業農家を育成  
ハウレンソウ、トマト等
- ・大区画化 畦畔除去
- ・用排水施設、暗渠排水等の更新又は整備
- ・ハウス等の施設整備
- ・新規就農者等や法人へ農地斡旋

### 3 こうりょうちょう たらど 広陵町寺戸地区 (3.4ha、26戸)

#### 将来像

**イチゴ産地の復活**

#### 設定計画の概要

- ・イチゴ産地復活  
竹取公園周辺のまちづくりとして観光イチゴ園開設
- ・イチゴ高設栽培施設の整備
- ・イチゴ等の生産に取り組む担い手に農地中間管理機構を活用して農地を集積
- ・水稻は認定農業者に農地を集積

### 2 たわらもとちょう はった 田原本町八田地区 (55ha、82戸)

#### 将来像

**夏秋ナス、ハウレンソウ、トマトなどの規模拡大、生産性向上**

#### 設定計画の概要

- ・高収益作物に取り組む専業農家を育成  
ナス、ハウレンソウ、トマト
- ・大区画化 畦畔除去
- ・用排水施設、暗渠排水等の更新又は整備
- ・ハウス等の施設整備
- ・農地中間管理事業を活用して、新規就農者等へ農地斡旋



4 こうりょうちょう くだらかむかい  
 広陵町百済川向地区 (22ha、95戸)

将来像

- ・ナス産地の復活
- ・集落営農

設定計画の概要

- ・ナスや軟弱野菜の畑作を導入
- ・水田の大区画化、用排水整備、農道整備、畑地かんがい施設整備
- ・農地整備をしたうえで集落営農組織等の担い手へ農地中間管理機構を活用して集積
- ・畑地化するエリアを設定

6 うだし いなきとうぶ  
 宇陀市伊那佐東部地区(51.5ha)

将来像

- ・大和高原宇陀ブランドによる農業振興を目指した軟弱野菜、有機野菜、花き等の生産拡大

設定計画の概要

- ・軟弱野菜(ミズナ、コマツナ、ホウレンソウ等)や有機野菜、花き(ダリア)等の高収益作物の生産拡大と品質や生産性向上
- ・農地中間管理事業を活用して、農業法人や大規模農家、新規就農者など多様な担い手に農地を集積
- ・用排水路施設の更新や整備、土層改良等の基盤整備
- ・高収益作物の生産拡大のためハウスなどの施設整備を進め、省力化のためスマート農業の導入を検討

5 ごじょうし たんばら  
 五條市丹原地区(12.4ha、35戸)

将来像

- ・地域の法人との連携等による青ネギの導入
- ・集落営農と組織の法人化

設定計画の概要

- ・地域の法人と出荷・販売等で連携し、青ネギを生産
- ・水稲後作での業務用タマネギの導入
- ・露地ナスの水稲とのローテーションによる栽培
- ・水田の大区画化、用排水整備、農道整備、暗渠整備及び施設用地確保等
- ・農地整備と並行して集落営農組織等の担い手へ農地中間管理機構の活用等により農地を集積。組織の法人化後は、法人へ農地を集積
- ・高性能農業機械と保管用施設の導入と大区画化等により水稲栽培の低コスト化を実現し、高収益作物を生産拡大

7 へぐりちょう かみしょう・なしもと  
 平群町上庄・梨本地区(20ha、56戸)

将来像

- ・イチゴ”古都華”の生産拡大
- ・イチゴと小ギクの産地間連携

設定計画の概要

- ・環境モニタリングの導入による高品質・安定生産
- ・老朽化した温室団地の改良
- ・まとまりのあるイチゴ団地の形成
- ・町内産地間でのリレー雇用
- ・安定した雇用確保による生産拡大
- ・老朽化した農道、用排水路等の整備
- ・未整備農地の圃場整備

## 特色ある取組～特定農業振興ゾーン③～

8

やまこおりやまし みつはし  
大和郡山市三橋地区

(18ha、34戸)

### 将来像

- ・大和丸なすの振興と次世代への継承
- ・農地利用促進と担い手への集積

### 設定計画の概要

- ・販路多様化による安定販売  
首都圏などの高級料亭向け食材としてだけでなく、県内消費も拡大し、販路を多様化  
新たなレシピ開発、SNS等の活用による個人消費（大和丸なすファン）の拡大
- ・作業改善による効率化  
ハウスへの遮光資材被覆による、夏場の作業環境改善  
ICT技術を活用したハウス内の環境制御
- ・なら担い手・農地サポートセンターを活用した、担い手への農地集積
- ・三橋特産野菜（イチゴ、トマト、軟弱野菜等）の生産拡大

9

うだし おおうだせいしほくぶ  
宇陀市大宇陀政始北部地区

(33.9ha、93戸)

### 将来像

- ・既存の振興ゾーンと連携し、大和高原宇陀ブランドによる農業振興を目指した軟弱野菜、大和の伝統野菜等の生産拡大

### 設定計画の概要

- ・軟弱野菜や祝だいこん、ケール等の高収益作物の生産拡大と品質や生産性向上
- ・農地中間管理事業を活用して、農業法人や認定農業者等の担い手へ農地を集積
- ・用排水路施設の更新・整備、スマート農業向けインフラ・システム整備、鳥獣害防止柵設置
- ・ヨモギなど薬用植物等を活用した耕作放棄地解消や6次産業化を検討



宇陀市大宇陀政始北部地区（画像提供：奈良県）

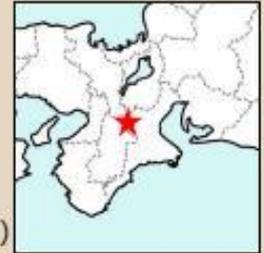
R4開始

うだし 宇陀市 (奈良県)

～主な品目～  
水稲・野菜(ほうれん草等)

実施体制 宇陀市

面積情報 有機農業取組面積：21 ha 耕地面積に占める割合：1.3 %  
(令和3年度末時点)



1 成果目標

有機農業の取組面積の拡大 R3年度 21.2ha → R9年度 22ha  
 有機農産物の販売数量の拡大 R3年度 275.2t → R9年度 290t  
 有機農業に取り組む農業者数の増加 R3年度 15人 → R9年度 20人

2 有機農業を拡大していく上での課題

- ・病虫害による規格外品の発生
- ・計画播種を行っているものの、気候の影響による流通ロスの発生。

拡大をはばむ雑草の紹介

- ・イヌビユ等 (4月～10月)
- 【対策】  
太陽熱消毒の徹底(実施中の地温の確認等)



▲収穫期の雑草発生状況

3 課題に対する取組のポイント・成果

「特定農業振興ゾーン※」を核として有機農業の生産・流通の改善を図る。市内畜産堆肥の流通試験や学校給食での食育などの取組を進めることにより、有機農業の生産・消費拡大を加速化し、中山間地域における有機農業の先進拠点を創出する。

※特定農業振興ゾーンとは、県内の農地を有効に活用し、農業の生産性の向上を図るために知事が地区を設定するもので、奈良県独自の取組。

【取組による定量的な成果】  
有機面積拡大 R3：21.2ha → R4：21.5ha

ポイントとなる技術

- ・堆肥施用による地力向上
- ・太陽熱消毒及び輪作体系による病害虫防除
- ・UVカットフィルムと0.6mm防虫ネットの併用による害虫被害低減



◀防虫ネット

4 主な取組内容

①生産

- ・市内畜産堆肥の流通試験
- ・電場冷蔵庫(電場によりチルド状態を保持)の利用により収穫物の長期鮮度保持を検討し、出荷ロスを削減する。

②加工・流通

- ・規格外品を利用したペーストの2次加工品開発等による有効活用促進、学校給食への活用を実施。

③消費

- ・販路拡大のため、市内マルシェやフードフェスへの出展を支援。
- ・PRホームページの拡充や直売所への有機農産物コーナーの設置及びシンボルマークの運用に取り組む。



▲規格外品の加工品開発



▲フードフェスへの出展

R5 開始

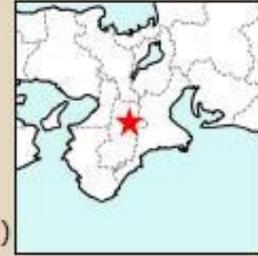
# 天理市 (奈良県)

～主な品目～  
茶 (番茶)

実施体制 天理市

面積情報 有機農業取組面積：0 ha 耕地面積に占める割合：0 %

(令和3年度末時点)



## 1 成果目標

有機農業の取組面積の拡大 (茶)	R4 年度	0.3ha	→	R10年度	2.3ha
有機農産物の販売数量の拡大	R4 年度	0.4 t	→	R10年度	4.8 t
有機農業に取り組む農業者数の増加	R4 年度	2人	→	R10年度	8人

## 2 有機農業を拡大していく上での課題

かつて福住茶の産地であったが、後継者不足等で放棄茶畑が増加。放棄茶畑は長期間化学合成農薬・化学肥料が断たれ微生物が増えているため、オーガニックに適していると考えられ、活用拡大を図る。

### 拡大をはばむ雑草の紹介

- ・カラスウリ (6月～9月)
- 【対策】  
手作業による除草



▲カラスウリ

## 3 課題に対する取組のポイント・成果

放棄茶園の再生と大手小売業者との連携によりお茶の加工品の開発を行う。また、お茶の生産を主軸としてお茶に合わせる野菜やハーブの有機農業による栽培を推進する。

【取組による定量的な成果】

有機面積拡大 R4：0.3ha → R5：1ha

### ポイントとなる技術

土壌の化学性、物理性の分析に加えて、生物性を数値化する分析技術 (SOFIX) に基づく施肥設計により、経験だけに頼ることのない科学的な指標を持った施肥を行うことが出来る。



SOFIX分析を実施した圃場▲

## 4 主な取組内容

### ①生産

- ・新規に有機農業を始める農業者への土壌診断や堆肥診断の支援、未利用資源を利用した堆肥作りのワークショップを実施
- ・放棄茶園の再生
- ・混植栽培や緑肥及びバイオ炭を活用した有機農業に関する実証調査



▲堆肥づくりワークショップ

### ②加工・流通

- ・ブレンド茶等の加工品の検討・試作
- ・ブレンド茶等の県内飲食店等への流通・販路拡大や商談会の実施



▲商品化した里山三年晩茶の販売

### ③消費

- ・有機農業の普及啓発のための講演会やワークショップの開催
- ・オーガニック農業を広めるためのHPの作成



なら食と農の魅力創造国際大学校  
NARA Agriculture and Food International College

なら食と農の魅力創造国際大学校(ならしよこのうのみりよくそうぞうこくさいだいがっこう、英称:NARA Agriculture and Food International College、通称:NAFIC(ナフィック))は、「奈良県農業大学校」を前身にした奈良県桜井市に所在する奈良県立の農業及び調理の担い手を育成する大学校。  
平成28年4月開校。



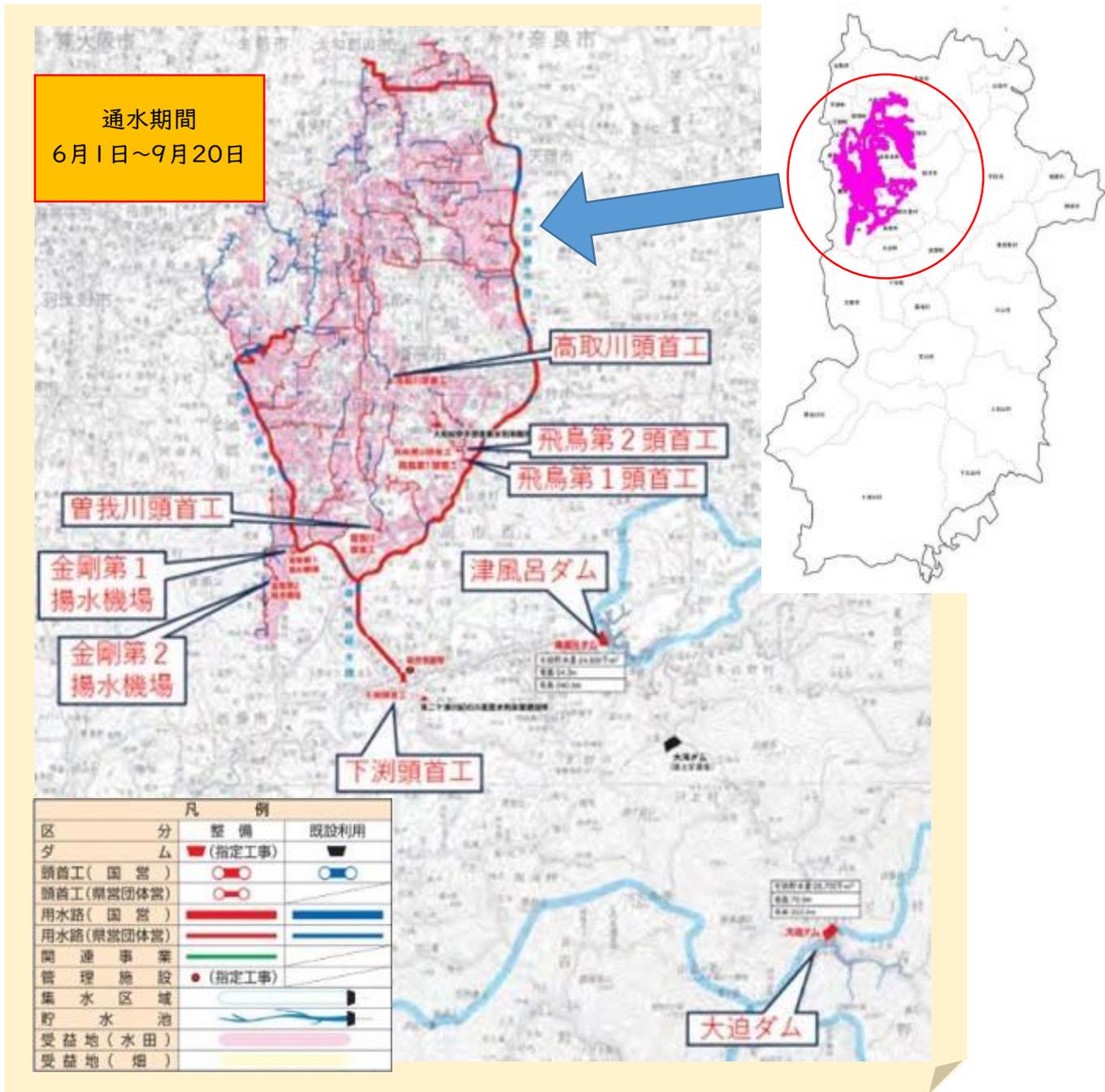
<p><b>アグリマネジメント学科</b></p> <p>農業のプロを育成。</p> <p>生産から流通販売まで、幅広い知識と実践力を身につけるため、各分野の専門家と経験豊かな農業技術者によるカリキュラムにより“農業経営のプロになる”夢を支援します。</p>	<p><b>特徴1</b></p> <p>充実した実習を通して、高品質かつ幅広い品目を生産できる技術力を修得します。</p>	<p><b>特徴2</b></p> <p>「1人1ほ場の実習」や「先進農家での実践実習」の選択制実習により、就農に必要な実践力を身につけます。</p>
	<p><b>特徴3</b></p> <p>農業経営者に必要な、流通から販売までの知識や経営センスを身につけます。</p>	<p><b>特徴4</b></p> <p>農の知識に加え、食の知識も得ることで、視野の広い農業経営者を育てます。</p>
<p><b>連携</b></p>		
<p><b>フードクリエイティブ学科</b></p> <p>料理・サービスのプロを育成。</p> <p>食材に関する知識から、調理技術、サービス手法まで、幅広い知識と実践力を身につけるため、各分野の講師陣による実践実習を中心としたカリキュラムにより“飲食・サービス業界で活躍する”夢を支援します。</p>	<p><b>特徴1</b></p> <p>フランス料理をベースに「1人1ストーブ方式」で理論に基づいた高い調理技術を磨きます。</p>	<p><b>特徴2</b></p> <p>オーベルジュ実習などを通して実践力を育成。料理人としてのセンスともてなしの心を磨きます。</p>
	<p><b>特徴3</b></p> <p>農業の知識を修得し、食材の良さを活かす力を磨きます。</p>	<p><b>特徴4</b></p> <p>就職や開業、進路に応じたコースを用意。卒業後、現場で求められる即戦力を磨きます。</p>

大和平野は雨の少ない地域で、昔から数多くのため池をつくり、恒常的な水不足を解消してきました。  
 (現在、約4,200カ所)

このようにして水不足をしのいできましたが、ため池や井戸では限界があり、南部(年間雨量の多い山岳部)に豊富にある水を、北部(大和平野)に流してこることが江戸時代からの悲願となっていました。  
 (奈良県山岳部に降った雨は吉野川を下り、和歌山県に注ぐため、奈良県は慢性的な水不足でした)

実現には難問がありましたが、吉野川下流で渇水と水害に苦しんできた和歌山県との話し合いがまとまり、吉野川から取水する総延長約336kmの吉野川分水が整備されました。(昭和27年着工～昭和62年完了)

また、水稻作のための取水であったため、通水期間も限られており、大和平野では米が主たる作物となっています。



◆農林水産省では、農林水産物・食品の輸出に意欲的に取り組もうとする農林漁業者・食品事業者等のサポートや交流機会の創出等を図る「GFPコミュニティサイト」を立ち上げ、当該サイトに登録した者を対象に、訪問診断を実施しています。奈良県の登録数(令和7年4月現在)は63事業者等です。

◆農林水産物・食品の輸出拡大のため、これらの生産、製造、加工又は流通の合理化、高度化その他の改善を図る事業に関する計画(輸出事業計画)について、奈良県では3事業者等が農林水産大臣から認定を受けています。(令和6年4月末現在)

◆主な輸出品目は、柿、いちご、加工食品(素麺、醤油等)、日本酒、リキュール、切り枝、金魚です。

◆主な輸出先は、香港、台湾、タイ、米国、EU(フランス等)、中国、韓国、ベトナムです。

## 取組事例

### 「奈良の柿」を海外へ

JAならけん

【主な品目】 柿

【主な輸出先国・地域】 香港

【輸出取組の概要】

- ・若手生産者を中心とした産地から「奈良の柿」を輸出
- ・国内需給バランスを見極め、輸出量を調整
- ・1-メチルシクロプロペンくん蒸剤(1-MCP)の使用により、鮮度、品質を保持

【輸出実績】(平成17年度より輸出開始)

令和6年度 輸出額 (2,831万円) 輸出量 65t 出荷時期 7~12月



化粧箱に詰められた贈答用の柿

### 国産こだわりいちごで世界を席卷

奈良いちごラボ

【主な品目】 いちご

【主な輸出先国・地域】 台湾、香港、欧米等

【輸出取組の概要】

- ・県内いちご生産者4名で組織する「奈良いちごラボ」から市場・仲卸を介して輸出
- ・アジア圏から始め、米国にも輸出を展開。今後はヨーロッパにも拡大予定

【輸出実績】(平成28年度より輸出開始)

令和6年度 輸出額 (3億5,000万円) 出荷時期 11月下旬~5月中旬



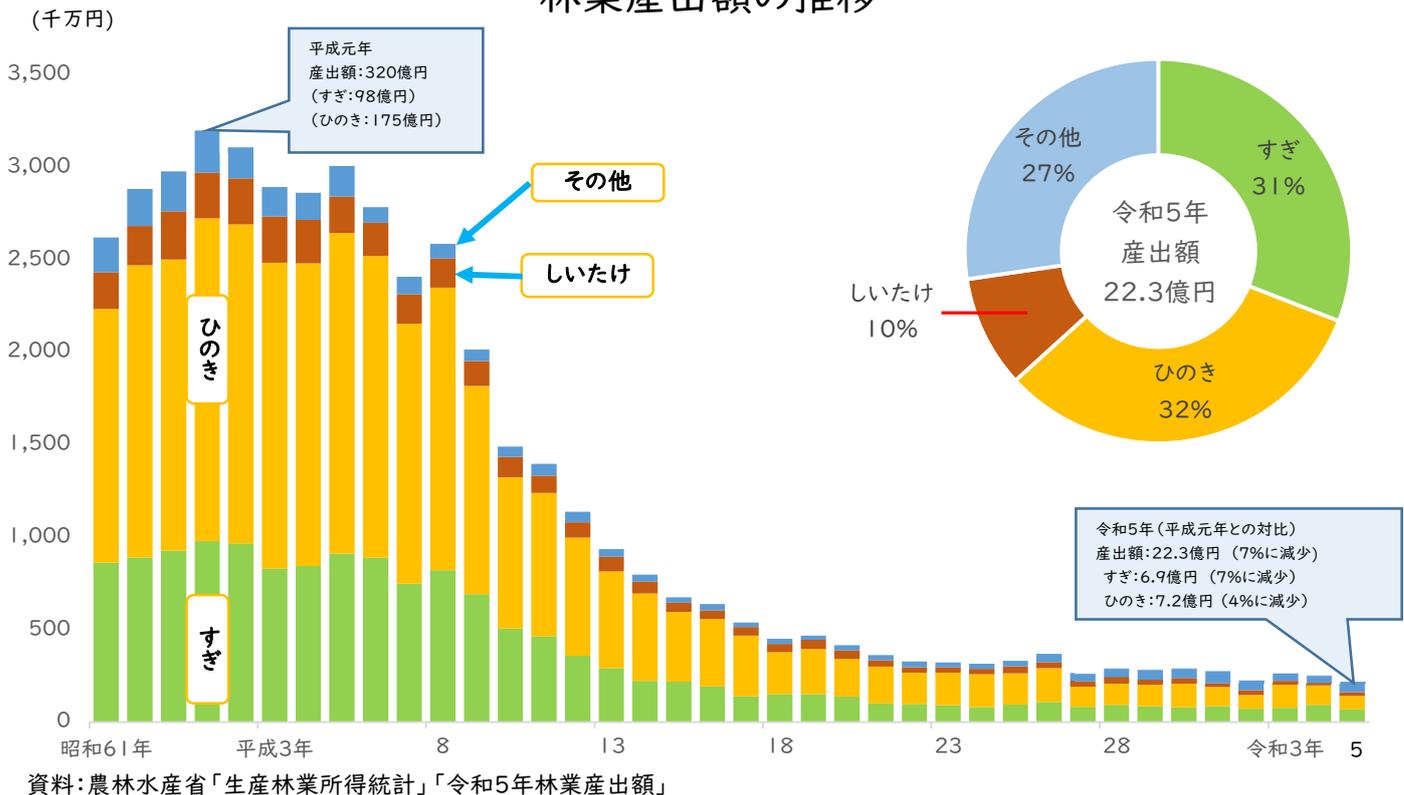
3色のいちごを詰め合わせた商品  
(画像提供:奈良いちごラボ)

### Ⅲ 奈良県の林業

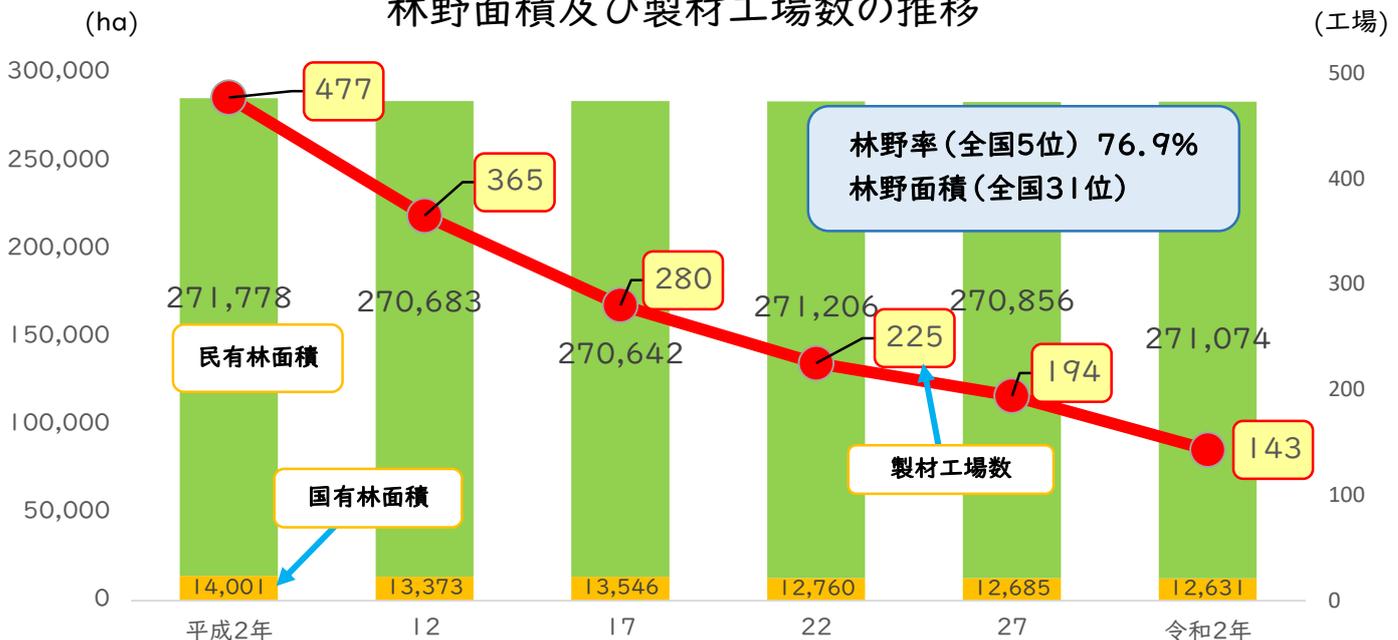
#### 林業産出額、林野面積、製材工場数

- ◆林業産出額は、令和5年で22.3億円になっており、平成元年と比べると1割以下に減少しています。
- ◆銘木といわれる吉野杉、吉野檜の建材以外の需要を掘り起こすための新商品（天然木を使用した内装壁紙シートや建具、キッチン用品など）の開発が進められています。
- ◆県内の製材工場は、昭和40年代には建材需要の高まりから557工場ありましたが、その後、輸入材の増加、建材需要全体の減少、林業従事者の減少など令和2年には143まで減少しています。

#### 林業産出額の推移



#### 林野面積及び製材工場数の推移



## IV 奈良県の水産業

### 内水面養殖業

◆海のない奈良県では、古くからアユ・アマゴ等の川魚の養殖が行われていました。  
アマゴ養殖は、県南部(吉野郡)や県東部(宇陀郡)を中心に営まれています。



内水面養殖業収穫量 (奈良県のます類その他10トンアマゴ)

全 国 都 道 府 県	計 トン	魚 類					其 他 トン
		ま す 類		あ ゆ トン	こ い トン	う な ぎ トン	
		に じ ま す トン	そ の 他 トン				
全 国	30,341	4,734	2,067	3,385	1,725	18,341	89
奈 良	11	x	10	x	-	1	...

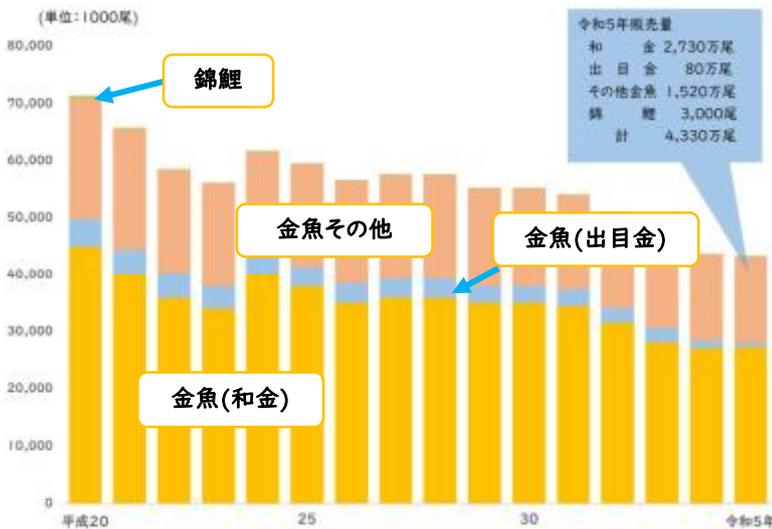
令和5年内水面漁業生産統計調査

「…」は、調査を欠くもので、琵琶湖、霞ヶ浦及び北浦のみ調査

### 観賞用金魚の養殖

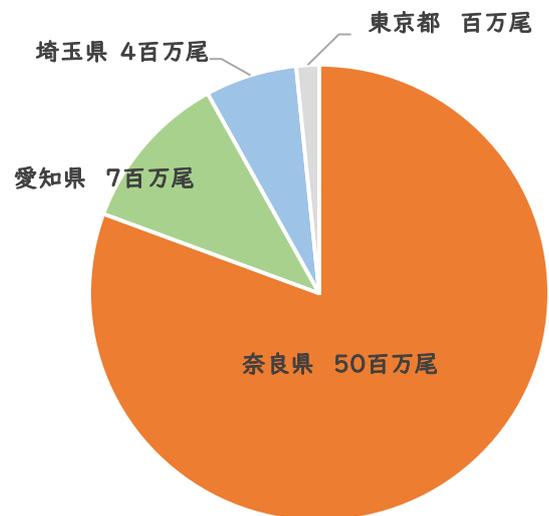
◆奈良県大和郡山市では、観賞用金魚の養殖がさかんで、愛知県弥富市、熊本県長洲町などとともに、日本有数の金魚の生産地として知られています。  
また、主産4都県における金魚販売量で見ると、奈良県は1位となっています。

奈良県(大和郡山市)の金魚販売量



資料:大和郡山市ホームページ資料より作成

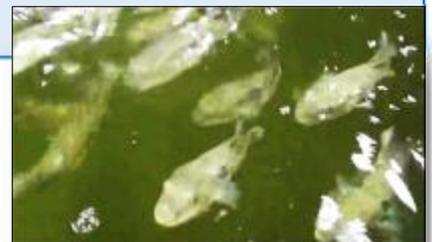
主産4都県における金魚販売数量  
(平成30年)



資料:奈良県ホームページより

### 陸上養殖

◆新たな取り組みとして、山間部(天川村)でトラフグの養殖などもはじまっています。  
人工のエサだけを与えることで、「毒のないフグ」を目指しています。



## V 奈良県あれこれランキング

### 奈良県の消費動向

下の表は、総務省による「家計調査(二人以上の世帯) 品目別都道府県庁所在市及び政令指定都市ランキング(2022年(令和4年)~2024年(令和6年)平均)です。

この調査のなかから「奈良市」が比較的上位になるものをピックアップしました。

その結果、「関東は豚、関西は牛」といわれるように牛肉の購入は関西が多く占め、奈良市も上位に入っています。1位では、すし(弁当)の購入でした。また食品以外として上下水道料が5位となっています。

品目	肉類								魚介類		野菜			
	肉類		生鮮肉		牛肉		牛肉		たこ		たまねぎ		生しいたけ	
単位	<金額>		<金額>		<金額>		<数量:g>		<金額>		<数量:g>		<金額>	
順位	全国	98,146	全国	79,576	全国	21,709	全国	5,861	全国	1,137	全国	14,990	全国	1,924
1	堺市	115,313	堺市	96,430	堺市	36,465	堺市	8,732	堺市	1,546	大津市	18,332	秋田市	2,446
2	大阪市	113,359	大阪市	95,476	京都市	34,543	大阪市	8,555	神戸市	1,503	京都市	17,719	富山市	2,366
3	京都市	112,380	京都市	95,046	奈良市	33,909	奈良市	8,268	大阪市	1,493	奈良市	17,470	奈良市	2,349
4	奈良市	110,931	奈良市	93,757	神戸市	33,653	松山市	8,235	奈良市	1,420	大阪市	17,286	岐阜市	2,327
5	神戸市	110,180	神戸市	93,543	和歌山市	33,135	北九州市	8,086	京都市	1,375	札幌市	17,279	前橋市	2,280
6	大分市	109,534	大分市	91,606	大阪市	32,582	京都市	7,924	東京都区部	1,348	北九州市	17,081	山口市	2,177
7	大津市	108,911	熊本市	90,144	大津市	30,616	山形市	7,919	さいたま市	1,323	千葉市	16,922	徳島市	2,151
8	熊本市	108,531	大津市	89,912	津市	30,182	山口市	7,909	札幌市	1,271	松江市	16,835	京都市	2,149
9	広島市	106,670	和歌山市	88,910	山口市	28,655	福岡市	7,585	広島市	1,265	新潟市	16,808	浜松市	2,143
10	山形市	106,406	広島市	87,875	大分市	28,403	和歌山市	7,516	和歌山市	1,263	熊本市	16,715	金沢市	2,131
最下位	前橋市	77,494	前橋市	60,013	盛岡市	10,622	前橋市	3,077	那覇市	442	福井市	12,207	那覇市	1,324

品目	果物		乳卵類		調理食品		油脂・調味料		飲料		食品以外			
	柿		柿		牛乳		すし(弁当)		ソース		緑茶		上下水道料	
単位	<金額>		<数量:g>		<数量:l>		<金額>		<数量:ml>		<数量:g>		<金額>	
順位	全国	1,028	全国	2,015	全国	70.51	全国	15,484	全国	1,380	全国	683	全国	61,620
1	岐阜市	2,109	岐阜市	6,828	京都市	81.62	奈良市	18,853	広島市	2,218	静岡市	1,344	山形市	89,406
2	奈良市	1,753	奈良市	3,733	奈良市	81.53	堺市	18,183	徳島市	2,103	浜松市	1,161	長野市	85,067
3	京都市	1,419	鳥取市	3,414	大津市	80.55	富山市	17,856	奈良市	1,940	京都市	1,005	松江市	80,633
4	千葉市	1,358	高松市	3,052	堺市	79.29	静岡市	17,765	高松市	1,935	奈良市	917	さいたま市	78,855
5	札幌市	1,349	和歌山市	2,999	名古屋市	78.98	和歌山市	17,697	大阪市	1,917	長崎市	897	奈良市	76,500
6	和歌山市	1,338	堺市	2,973	神戸市	77.40	大阪市	17,674	大津市	1,804	津市	897	福島市	76,224
7	川崎市	1,318	札幌市	2,876	千葉市	76.82	前橋市	17,630	岡山市	1,774	福井市	857	長崎市	75,478
8	堺市	1,265	神戸市	2,777	長野市	76.68	神戸市	17,310	神戸市	1,702	千葉市	822	青森市	73,558
9	神戸市	1,257	大阪市	2,771	山形市	75.53	浜松市	17,273	和歌山市	1,692	宮崎市	820	大津市	72,827
10	相模原市	1,235	青森市	2,755	岡山市	75.17	金沢市	17,173	鳥取市	1,671	堺市	817	富山市	72,687
最下位	岡山市	497	岡山市	914	那覇市	48.35	秋田市	11,681	那覇市	689	那覇市	279	徳島市	44,040

総務省家計調査-「2022年(令和4年)~2024年(令和6年)平均」より

## 市町村毎の農家の現状

下の表は、令和2年2月1日調査時点の各自治体毎の農家の状況(位置)を表しています。

奈良県は、1戸当たりの耕地面積が少なく、県平均でも54.0aしかありません。

意欲ある担い手へ土地を集積するため、農地中間管理機構もマッチングを行っていますが、表に示すように1戸当たりの耕地面積が少ないこと、団地化されている地域も少なく、小さな耕地が点在していることなどから出し手の意向は多いものの、受け手側の利便性の問題もあり、なかなかマッチングがうまく行かないのが実態となっています。

総農家数			販売農家割合		農業従事者の平均年齢				経営耕地面積	
市町村名	順位	農家戸数 (戸)	順位	割合 (%)	順位	農業従事者 (歳)	順位	基幹的農業従 事者(歳)	順位	1戸当たりの 耕地面積(a)
奈良県	38	21,950	42	48.4	31	62.1	17	69.5	42	54.0
奈良市	1	2,713	8	52.8	13	62.8	21	69.9	3	62.9
大和高田市	14	543	20	39.8	13	62.8	11	71.1	17	46.2
大和郡山市	6	1,221	2	58.6	25	61.0	23	69.8	5	58.8
天理市	2	1,751	3	58.4	11	62.9	17	70.5	7	56.6
橿原市	5	1,266	17	43.0	20	61.9	13	70.8	19	45.6
桜井市	8	1,156	14	44.6	11	62.9	9	71.3	18	46.2
五條市	4	1,629	1	62.7	21	61.6	33	66.0	1	105.3
御所市	7	1,163	6	56.1	19	62.0	8	71.7	13	49.7
生駒市	11	704	27	32.7	23	61.4	26	69.6	28	32.4
香芝市	13	561	29	24.4	34	59.2	27	69.5	29	28.1
葛城市	9	995	15	44.1	28	60.8	28	68.8	20	43.8
宇陀市	3	1,672	5	56.2	15	62.3	12	70.9	9	53.7
山添村	15	526	18	42.4	18	62.1	20	70.1	2	65.4
平群町	21	314	9	51.9	33	59.7	35	63.8	6	58.8
三郷町	32	75	33	14.7	15	62.3	34	64.0	31	24.0
斑鳩町	17	408	13	46.8	31	60.5	25	69.7	16	48.0
安堵町	26	213	25	36.2	15	62.3	2	75.0	24	38.7
川西町	24	274	11	50.0	30	60.6	15	70.7	14	48.9
三宅町	27	184	7	54.3	29	60.7	13	70.8	12	50.8
田原本町	10	869	4	56.7	24	61.3	18	70.4	4	59.1
曾爾村	29	171	16	43.9	8	64.5	23	69.8	27	36.8
御杖村	25	219	21	38.8	4	66.8	10	71.2	25	38.4
高取町	18	343	22	38.8	9	63.4	19	70.2	26	37.6
明日香村	16	485	12	48.0	27	60.9	30	68.4	11	51.2
上牧町	30	120	23	37.5	32	60.2	3	73.5	23	39.2
王寺町	31	102	31	20.6	3	68.5	5	72.9	30	25.5
広陵町	12	611	10	50.7	25	61.0	21	69.9	10	52.4
河合町	23	288	19	39.9	10	63.2	6	71.8	22	40.8
吉野町	21	314	34	13.7	4	66.8	6	71.8	34	21.9
大淀町	19	330	24	37.0	22	61.5	31	67.2	21	42.7
下市町	20	316	26	35.8	7	66.2	29	68.7	8	56.2
黒滝村	36	31	28	25.8	35	55.9	16	70.6	15	48.3
天川村	34	63	35	7.9	6	66.3	32	67.0	36	14.5
野迫川村	38	13	36	7.7	×	×	×	×	×	×
十津川村	28	177	30	22.0	1	71.7	1	77.4	32	22.6
下北山村	37	27	32	14.8	2	71.3	3	73.5	33	22.2
上北山村	39	2	39	0.0	-	-	-	-	×	×
川上村	35	37	37	2.7	×	×	×	×	35	15.2
東吉野村	33	64	38	1.6	×	×	×	×	37	14.0
	2020農林業センサス Ⅵ1「総農家数」 ※農家とは、経営耕地面積が10a以上又は調査期日前1年間の農産物販売額が15万円以上の世帯をいう。		2020農林業センサス Ⅵ1「総農家数」 ※算出方法 販売農家÷ 総農家戸数 ※販売農家とは、経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間の農産物販売額が50万円以上の農家をいう。		2020農林業センサス Ⅲ6「世帯員の平均年齢」 農業従事者：15歳以上の世帯員のうち、調査期日前一年間に自営農業に従事したものをいう。 基幹的農業従事者：15歳以上の世帯員のうち、普段仕事として主に自営農業に従事しているものをいう。				2020農林業センサス Ⅵ2「経営耕地のある農家数と経営耕地面積」 ※算出方法 経営耕地面積÷総農家数	

「-」 調査は実施したが事実がない

「×」 個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの。

